

ラテンアメリカにおける帝国主義との闘いと金日成・金正日主義

ブラジル・チュチェ思想研究センター所長

ガブリエル・マルティネス

本稿では、ラテンアメリカ、特にブラジルにおける反帝国主義闘争の現段階のいくつかの側面を、金日成・金正日主義の観点から論じるとともに、我々の大陸における革命運動が、科学的社会主義の正しい理解をその方向性として発展することの重要性を早急に立証しようとするものである。

近年、ラテンアメリカ諸国の人々は、帝国主義に対して厳しく決定的な戦いを繰り広げている。この闘争は、歴史上、武装闘争、大衆闘争、選挙闘争など、さまざまな形で現れてきたが、新しい世紀の初めには、新たな水準に達している。1999年に始まったベネズエラのウゴ・チャベスのボリバル政権は、国際レベルでの階級闘争の微妙な時期に、アメリカ大陸で独立を求める人民大衆の闘争に新たな刺激を与えた。この時期、革命勢力は、ソビエト連邦と東欧の社会主義諸国の解体によって受けた大きな敗北の重みをまだ感じていた。

ベネズエラにおける民主・民衆勢力の選挙戦での勝利に続き、ブラジル、ボリビア、エクアドル、ニカラグア、ホンジュラス、パラグアイなどの国々でも勝利を収め、大陸に新たな変化の波をもたらした。キューバもまた、アメリカ帝国主義の攻勢に果敢に抵抗し、社会主義の赤旗を高く掲げ続けた。強調しておきたいのは、これらの政府の間には多くの違いがあり、イデオロギーやプログラム、それぞれの政府で行われた変革の急進度に違いがあるが、一般的には、すべての政府が、変革と真の独立の達成を求めるラテンアメリカの人々の切望を、何らかの形で反映していたということだ。

明らかに、このような大陸における力の相関関係の変化は、アメリカ帝国主義とその現地代表を満足させるものではなかった。反動勢力、特に親帝国主義の構成ブルジョアジーは、当初からこれらの新しい人民政府の転覆を企て始め、ホンジュラス、パラグアイ、ブラジル、ボリビア、エクアドルのケースでは一定の成功を収めた。ブラジルの例を挙げれば、本質的に反動的で帝国主義的な機関である司法当局とアメリカの機関との密接な連携が明らかになった。米帝国主義は、ブラジルの内政に堂々と介入し、ジルマ・ルセフ大統領の電話を盗聴するまでに至った。

2013年、大都市でバス料金の値上げに反対するデモが発生すると、反動勢力はすぐにデモに侵入し、労働者党政権とジルマ・ルセフ大統領に具体的に対抗するように仕向けた。やがて、このようなデモは、反共的な要素が特に顕著で、公然と反動的な性格を持ち始めた。この運動は、ジルマ・ルセフの弾劾に至り、ボルソナーロと彼のファシスト集団の台頭に貢献した。

反動的なグループが比較的容易に運動に侵入し、その性格を変えてしまったという事実は、ブラジル左翼の政治組織の組織的・思想的な深刻な弱点を明確に示している。これは、闘争の前進において質の高い飛躍を望むならば、克服しなければならない現象である。社会主義とは何か、社会主義への移行を開始するための具体的な道筋は何かということが、思想的に明確になっていないことが、直面している大きな問題の一つである。金正日同志は、著作『社会主義は科学である』の中で次のように述べている。「社会主義を実現するためには、それを

担い遂行できる革命勢力を準備し、正しい闘争方法を採用することが不可欠である。そうでなければ、社会主義を希求する人民大衆の自主的な要求は、単なる憧れに過ぎなくなるだろう」

革命勢力の準備には、正しい思想の理解と、独立のための闘争における人民大衆の政治的計画を具体化できる組織の構築が必要である。この政治勢力は、労働者階級の党に他ならない。労働者階級の党は、革命の参謀であり、正しい思想で武装し、戦略的撤退が必要な状況であろうと、革命の攻撃の瞬間であろうと、闘争のすべての段階で大衆を指導することができる。金正日同志が『革命党建設の本質的問題』で次のように述べているように、社会主義のための闘争の歴史は労働者階級の党の建設とその活動の歴史であると言うことができる。「労働者階級をはじめとする人民大衆が続けてきたこの血みどろの戦いは、勝利の鍵も失敗の原因も、党の建設とその活動にあることを示している」

我々の大陸における労働者・革命運動は、労働者階級の意識的な闘争が始まってからほぼ1世紀を経ても(ブラジルの場合、労働者階級の最初の革命党は1922年3月に設立された)、いまだに階級の敵と帝国主義の勢力に対して決定的な勝利を得ることができないのは、どのような理由からなのか。反動的支配階級の積極的な抵抗とは別に、我々の陣営でも、我々の革命の前進を妨げる様々な誤解が流布しており、現在も流布している。右翼と「左翼」の逸脱は、革命闘争の発展を否定的にマークしているので、これらの問題の発生と発展を可能にしている要素を正しく理解する必要がある。

また、『社会主義は科学である』の中で、金正日同志は、現在、「社会主義から離脱したものは、資本主義に惑わされ、帝国主義者の「援助」と「協力」に希望を託して、混乱した社会主義への復帰運動を展開している」と指摘している。歴史を見れば、搾取者の「善意」や「階級間の協力」を期待することは、革命を失敗に導くことになる。”この抜粋の中で、金正日同志は、革命闘争の主要な目標である帝国主義と資本主義体制・陣形に対して幻想を抱かせようとするあらゆる種類の思想に反対する断固たる思想闘争を遂行する必要性に注意を喚起している。最近、人民運動が大きな敗北を喫したすべての国で、その敗北の理由を調べれば、多かれ少なかれ、すべての指導者が、帝国主義や自国の反動的な国家機関に惑わされていたことが明らかになる。今回もまた、反動階級は進んで権力から逃れようとはせず、進歩的な性質のわずかな変化に直面すると、自らを組織して敗北を押し付け、我々の大陸で発展しうる民主的、人民的、革命的な運動を押しつぶすというテーゼが証明されたのである。

最近では、クーデターを起こしたラテンアメリカのいくつかの国では、民主主義や反帝国主義の勢力が、失った地位を取り戻しつつあり、ボリビアはその最も典型的な例の一つである。エボ・モラレス大統領に対するクーデター以来、ボリビアの人々は帝国主義の支援を受けたクーデター実行者たちに対して断固たる抵抗を行い、その結果、先の大統領選挙で彼らが獲得した大幅な選挙戦での勝利につながった。

帝国主義に恒常的に苦しめられているベネズエラは、帝国主義の圧力に抵抗する能力を示し続けており、これは私たち全員が歓迎すべきことだ。エクアドルでは、進歩的な勢力も、前期に失ったいくつかのを回復する大きなチャンスがある。ブラジルでは、コロナウイルスの大流行で悪化した極めて不利な状況が続いているが、国民はボルソナロー派のファシスト政権に大きな不満を示し始めており、民主主義・進歩主義勢力は、最近ではルーラ氏の判決が取り消されたり、前大統領への迫害を主導した親帝国主義の判事が疑われたりするなど、再び部分的な勝利を(重要ではあるが)収めつつある。

これらの出来事は非常に重要であるが、帝国主義の攻勢に直面して警戒心を緩める口実にはならない。我々の大陸の帝国主義者やコンプラドール、親帝国主義勢力が、左翼、民主

主義、進歩的勢力が簡単に地位を回復できるようにクーデターを実行したと考えるのは、巨大な幻想である。そのため、今後も注意深く状況を見守っていく必要がある。

独立を勝ち取るための闘いは、各国の具体的な現実に応じて展開される闘いであると同時に、国際的な性格を持っている。ブラジル人民の革命的闘争は、ベネズエラ、ボリビア、エクアドル、アルゼンチンなど、すべてのラテンアメリカ諸国の人民大衆の革命的闘争と密接につながっている。同じように、ラテンアメリカ人民の革命闘争は、アフリカやアジアの人民の革命闘争と深く結びついている。第三世界の国々は、帝国主義との闘いにおいて重要な力を持っているので、私たちの闘いはすべて密接につながっている。

社会主義の勝利の道を歩み続ける朝鮮民主主義人民共和国は、民族と社会の独立を勝ち取ろうとする人民の闘争を支え、鼓舞する極めて重要な力を持っている。

我々は、朝鮮の社会主義が勝ち取ったすべての勝利に、あたかも我々自身のものであるかのように敬意を表す。なぜならば、我々は、ソ連の解体と社会主義国の消滅によって課せられた戦略的防御の状況から抜け出そうといまだに苦闘しているときに、強大で繁栄した社会主義国としての朝鮮の強化が、世界レベルでの社会主義の地位を強化することを十分に認識しているからだ。我々は、コロナ禍との闘いにおいて重要な勝利と結果を得た朝鮮人民、朝鮮労働党、金正恩同志に敬意を表し、ウイルスとの闘いで最高の結果を得たのはまさに朝鮮であり、社会主義体制の優位性を示していることを認識する。